

(宛名)

大日本帝国佐賀県東松

浦郡北波多徳須恵

檜崎惣助殿

(差出)

在朝鮮国黄州

第十二師団工兵第十二大隊

后備工兵第一中隊第一小隊

秀島与十

(本文)

文略 陳テハ氣下益々暖氣ニ相成

候処 先以御地御專家様ニハ御無

障無事御壯健候由芽出度奉存候 次ニ

迂生義御存之通り去三月廿九日屯營

出發致シ 全日門司ニ到着一泊シ

廿日ヲ以テ午前七時全港出發致シ

御用船金沢丸ニ乗込ミ 全日午前十一

時出帆致シ海上無事ニテ朝鮮国

仁川港ニ安着 全所ニ一泊致シ

四月二日全港ヲ發 鎮南浦ニ向ケ

出帆致シ 三日鎮南浦港ニ着

漸時淀泊致シ 大同江エ向ケ

上リ 約六里計リ上リ遠積洞ト

云フ一村落部ニ着一夜淀泊シ

四日午前八時上陸ノ命ニテ棧橋

之架設ヲ施シ皆上陸ヲ終ヘ

其ヨリ前進ヲ致シ一里計リ

進ミ 梅庄洞ト云フ一村部落ニ

着 当村ニ三日間村落舎營ヲ

ナシ 突然出發命有之黄州ト

云フ所ニ前進致シ 去ル七日ニ当地

エ着滞在罷在候 扱テ当地

氣候ニ於テハ内地ニ比スレハ二月

頃之氣候ニ候ニテ 余程凌ヨキ

時節柄ニテ候 小生御蔭テ到着

以來大元氣ニテ日々軍務勉

強罷在候間 乍他事左様御

承知被下度 扱テ此之方我々ノ

任務ニ於テハ臨時鐵道布

設之為軍路作業仕居候

左様御承知被下度 且亦金之助

様ニハ徵兵検査合格之由ニテ

四月一日ニ小倉北方兵營へ御入

隊之由ト承リ目出度奉存候

就テハ隊名ハ何聯隊何大隊

へ御入營ニ相成申候ヤ御尋

度存候間 何卒御知セ被下度
奉願候

二伸 小生留守中ハ家内事宜敷
御たのみ申上候 早々不一

第四月十九日

秀嶋与十

榎崎惣助殿